明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可　（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年八月十日（火曜日）　第百八十三號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●消防に就て注意（松井局長の談話）

大阪の火災の付き予は特に消防の改良に對して多大の感に打たれたるなり、先日上京の節東京にて消防大會のありたる時予は其の席に臨みて一場の講話を爲したるが其の大要は大博覽會も明治五十年に開會せらるゝにも拘はらず日本の消防は頗る幼稚なるを以て天下の笑ひものとなる故官民共に注意すべしとのことを述べ置けり然るに此度大阪の大火に就て益々其感を深くせしなり予は先年東京の警視廳に奉職中大阪の消防改善に付き同市長の訪問を受けたる當時歐洲に於ける消防の模樣を談し又其器具の紹介をも爲し之れが購入方に就き適當の勞を取るべきを約せり其後大阪市に於ては頗る完全の消防器具を買入れたる由なるが予は又大阪の消防に對して度々大阪の警務廳なる池上氏に向ひて意見を吐露し消防の專門警察官を設くることも助言したるを以て同氏は實行せしことならんと思へり

▲又上京の際有松警保局長に對しても神戸大阪の如き處には專務の消防司令官を置くことを述へたり而して今回大阪消防の能く行屆かざりし原因は思ふに水力の不充分なるも一原因ならんが消防の訓練も亦不完全なりしものと思考す蓋し消防は軍隊と同じく訓練に重きを置くべきものにて精鋭の器具あるも之れが取扱ひに馴れざる時は何等の効果なきものなり是れ歐洲に於て常備消防の設けある所以なりとす、故に予は此機會を利用し我國消防の改良を促すことを希望するものなり、予は嚮に消防叢譚の拙著あり、今又歐洲消防見聞錄の起草中なれば同好の士は就て見らるれば幸榮なりとす

翻て韓國消防の狀態を研究するに京城、仁川及釜山の居留地にありては消防の設備稍々見るべきものありと雖是又實に不完全にして頗る憂慮に堪へざるものあり、予は嚮に釜山理事官として赴任するや同地に蒸氣喞筒の据置あるを見しも其運用方法の宜しきを得ざるを見て東京より其道に經驗の聞へある吉田消防機關士を聘し訓練を爲さしめたることあり又消防組員を選擇する等多少上成績を見るに至りしか仁川に對しても度々火災あるを憂ひ吉田氏を勸め視察を遂げしめたることあり、又先年京城に大火あるや憂慮措く能はず殷鑑遠きにあらず之れを大阪の例に照すも京城は水道の水力頗る微弱にして且溜池等の設備なき上に消防の器具不完全にて消防隊の訓練も亦薄じ今日の現狀ならは必す失敗に歸するや必せり斯くては新開地に住居せるものに多大の關係あることなれは居留民の諸君は注意を拂はれんことを希望す、其方法は專門家を聘し劃策することと時機に適せりと思考す云々

▲各地の通信

●京城の蟲害　京城附近には農作物の蟲害甚しかりしが遂に終息せり

●平北の水害　平安北道に於ける水害如左　宣川郡各舍五間郡衙墻壁六間倒壞、郭山郡東西内中人路橋八間損壞流失、郡内面民有堤防十間崩壞、雲山郡北面萩里秀孟山城内鷹峯江渡涉中一名溺死、熙川郡軍器庫二間損害、博川郡嘉津江に於て泰川郡北面大成里に一名溺死

●咸興の大出水　七日咸興南道にては大出水ありたる旨其筋に咸興より來電あり



第二席　桃川燕玉　演

なれども主上に於ては御疑ひあらせられず、宿直藏人の歸りを御待ちあらせられる所へ宿直の公卿方から「定信の願書持參仕りましてございまする」と申上げる、恐れ多くも御自ら御手洗御嗽ひを遊ばされまして右の願書を御手に觸れる「朕今八幡宮の御名代となつて汝定信が願書を繙すぞ」と仰せられまして、御自身封を押切つて御覽あらせられました、

陸奥國白河の城主從四位侍從源朝臣定信謹み敬つて丹精の誠を擢んで神殿大床を驚かし不肖の身命を以て八幡大菩薩の神裁に任せ奉る事

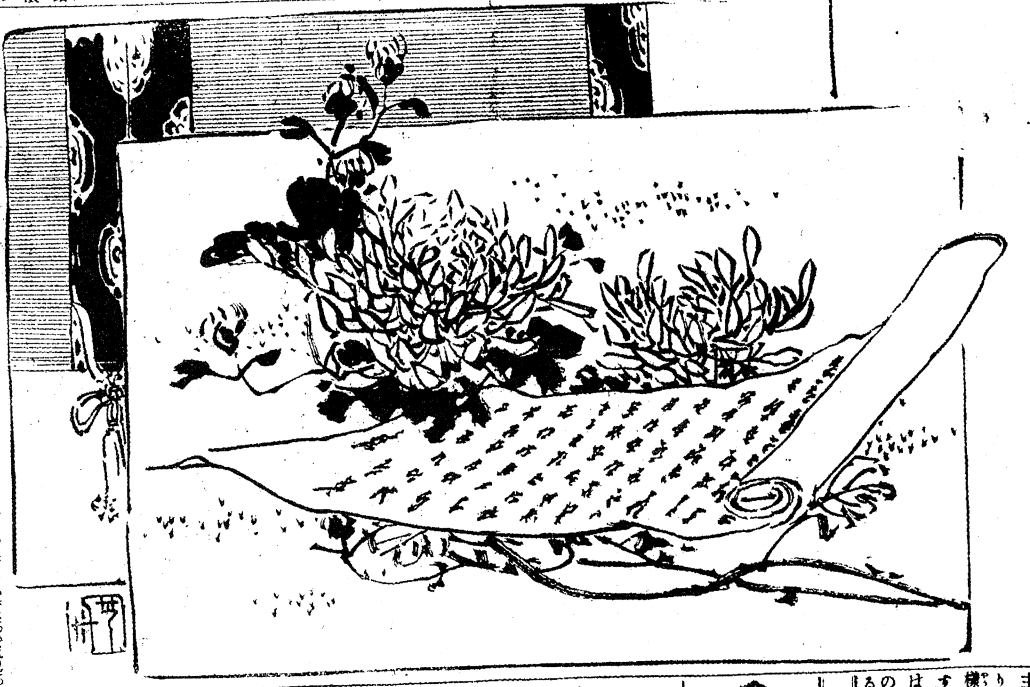
忝しく惟れば大菩薩は日城帝王の靈祖にして万民加護の靈神にて在します、和光同塵の仁德を垂れて、邪惡折伏の神威を輝かし給ふ事玆に千有余歲なり、尊きかな神德の高きは鳩ケ峯の高きに同じく賴母敷かな靈驗の顯著なるは岩淸水の顯著なるに均し、朝家の寶祚は偏に三寶隱護の勸に依つて長に、蒼生の安泰は專ら三光臨照の惠に隨つて平かなり、是を以て上一人より下万民に至る迄、或は天下泰平の爲に、或は後世安穩の爲に、祈願をなし、祈念を凝らしむるに、一として應せずと云ふ事なし、況や先祖義家朝臣より以來代々の源家に於ては氏の神と崇め奉りて、尊敬の志を致し奉る事曾て間斷あらず、爭か只今定信が申條を今舟に垂聽し給はさるべき、定信苟も清和の末葉を以て德川の庶流に座し、忝ひに諸候藩屛の列に供はつて將軍輔佐の任を瀆すに依り、不肖の身を顧ずして大政の重きに任じ、公武の合体を図ふして國土の安全を計らんと庶幾ふに他事なし、然るに今や朝廷に於ては尊生崇父の孝道に厚く、尊號宣下の儀禮を望ませ給ふ、是れ至孝の盛德に出でゝ承文の先蹤に則ると雖も、重代の名器を輕くして虛設の空號を濫らん事帝室の瑕瑾たり、院政の弊は中世初たるの廢なきに非ず、保平の亂は當時正しく既に實證あり、幼主僭庭より入つて大統を繼承し給ふ毎に實父宮家より出でゝ仙洞と國家の爭ひたるは必定なり、定信深く此に慮あるが故に、忍び難きを忍び爭ひ難きを爭ひ情に背き、理に悖るをも顧ず主上には孝道を完くし給はざるの御怒あり、將軍には忠節を致されざるの御憤をも憚らずして、一身の安危を抛ち尊號の宣下を拒み奉るの心を決する事實に人臣の苦節生涯の難事たり、然れ共恐懼の心は素より理非の當を明らむるに足らざるを以て、神明の示現に任じて其利益に依るに切なり、依て神慮の冥裁を仰

拝崇せしめらるゝ事ならば、養實の上皇並び立つて朝政の効用自ら偏する所あらんか、然のみならず幼主の政を親らし給はざるを利として、頻りに父子の情を以て勸かし奉るに至らば、政令二途に出でゝ臣民一從に惑ひ終に末代の禍後代の患たるべし、況や柳營の武家に於て此典例に倣ひ、親藩の家門を舉げて彼の父位に供ふる時は、宗族の禮、本末の制は全く之か爲に破れて、覇府の制令將軍の格式は悉く其用を失ひ、天下の亂れんが爲に玆に起生の願書を捧げ奉る、定信が決心若し天下の爲朝家の爲に忠節ならずと思召さば、速に獻ずる所の征矢を以て定信の胸を射させ給ひ、奉る所の太刀を以て定信の首を刎ねさせ給ひて、朝家天下の惡敵を退治あらせ給ふとも、定信更に恨と存ずる所なし、定信先づ此事を日光東照宮に所願し、今又大菩薩のうづの廣前に祈念し奉る、冥鑑過たずば速に神裁を下し給へ、謹み敬つて白す

寛政四年六月十五日

從四位侍從源朝臣定信

と認めてございます。此願書が容易ならざる願書、越中守殿の精神悉く此願書に籠つて居られましたから、終には事穩便に治まるやうに相成りました、主上に於ては此願書を繰り返し〳〵叡覽あらせられましたが、恐れ多くも龍顏にハラ〳〵と御淚を浮ませ給ひ「嗚呼天晴なるは定信の心底、身を擲ち爭ひ諫むの忠義の志如何にも感服の至り。此願書圖らず朕の眼に入つたるは是れ全く八幡宮の神慮より出でゝ祖宗の靈驗顯著に在し朕に告げさせ給ふにてあらん、爭か之を聽かざる事のあらん、朕今八幡宮の神慮を畏み奉りて汝定信の申條を入れさせ給はん」と御手づから願書をクル〳〵と卷き納め、傍らの御手箱の中に御入れ遊ばしそこで、其夜は御寢あらせられました、翌る十月の十五日に相成りまして關白殿下を召いて中山殿、其他の公卿御前へ伺候致しまして、尊號宣下の一條に就て關東へ何と仰せ下されるかと叡慮を待ち奉つた時に、主上は「朕深く存ずる旨之れあり、關東より答あるまでは宣下の事は見合せるからさ樣心得まするやう」、朝廷と武家と差障惹起すやうな事があつてはならぬから宣下の事は見合せと云ふ、關白殿下並に百官百司の公卿方が唯默然として何と御答を申上げるものもない。



京城新報

安奉線問題解決

交渉開始以來久しきに亘り容易に決定せざりし安奉線問題も我政府の雄斷によりて玆に解決を見るに至る、余輩は我政府の雄斷を嘉みするのみならず、亦た帝國の大陸經營進行の爲に喜ぶのみならず、世界交通の公益增進を速ならしむるに至りしことを深く喜ぶもの也。

抑も淸國政府は何が故に安奉線改築工事に就て條約の履行を快諾するに躊躇したるか、是には其裡面に複雜なる事情もありしならむ又地方官憲の誤れる報道の爲に疑惑をも抱きしならむ、故に一概に唯だ頑冥不霊ごと論ずるは或は酷ならむか、今更に淸國政府の擧動を退窮するは大人氣なし、倫敦タイムスの如きは日本の態度を是認し日本が滿洲鐵道に對する措置は批難するの點なく淸國が他の強國の煽動に驅られて日本に反抗するの愚擧を敢て爲せるは非也淸國の改革指導者は正さに日本たるべしと論せられしと云ふ、是れ眞に公平なる論議ならむ、東洋の平和は日淸兩國の提携によりて確保せ [illegible] て東洋の平和を確保すると共に兩國の幸福を增進するに至る也、余輩は淸國が今後益々覺醒して全く帝國の誠意を看取するに至らんことを希望するもの也。

倫敦電報

▲タイムスの所論　倫敦タイムスは日本が滿洲鐵道に對する措置を批難するの點なきを述べ淸國に對しては他の強國の煽動に驅られ日本に反抗するの愚擧を警告し最後に論結して淸國の改革指導者は正さに日本たるべき事を覺悟せよと喝破せり（八日東京經由）

奉天電報

▲意氣衝天の慨あり　國澤滿鐵副總裁は政府の電命に接するや即時に臨時列車を仕立て數千の人夫を引率して工事施行地へ急行自ら現場を指揮して工事に着手し居れり意氣衝天の慨ありて宛然戰地の觀あり（八日午後二時發）

▲工事は無事進行　淸兵は吾の勢ひ猛烈なるに避易して何等支障なく工事進行中なり（八日午後二時發）

北京電報

▲淸國政府の狼狽　吾が伊集院公使より安奉線問題に就ては自由行動を取る旨通告に接し淸廷は今更の如く狼狽を極め御前會議を開き居れり（八日午前十一時發）

東京電報

▲改築工事の强行　南滿鐵道會社副總裁國澤新兵衞氏は安奉線起工に關する外務大臣の電命に接すると共に即時手配を爲し昨七日午前六時より數千名の人夫を指揮し福岑嶺方面より改築に着手したる旨公電達したり（八日午前十二時發）

▲淸政府遂に反省　我政府が安奉線問題に關し淸國の誠意を認めず遂に最後の通牒を北京政府に送りて安奉線改築を强行するに決するや東京駐劄淸國公使は北京外部に對し急電を發して安奉線改築の必要なるを具申したるが其返電に

一、双方より委員を派して條約の履行を爲す事

一、狹軌鐵道を廣軌鐵道と爲す事

一、線路の變更は双方委員協議の上決定すべき事

とあり是を以て見るに淸國政府は遂に屈服したるもの〻如く日本政府も自由行動を取るの必要を認めずと（九日着）

▲無線電信と新聞　無線電信にて新聞電報を取扱ふの件本日遞信省令を以て公布せらる開始自十日（九日發）

▲安奉工事と妨害　安奉線工事は支障なく進行中なるも使用人夫中の淸國人を教唆して罷業を企てしめんとの風說ある爲め警戒中なり（同上）

▲淸國政府の返電　東京駐劄淸國公使は北京政府に向ひ安奉線問題に關し電稟したるに昨八日北京政府は返電を爲して安奉線問題に對しては毫も不同意を唱ふるに非ざるを以て日本政府に於ても此際自由行動を取らず穩かに今後の交渉を進行せられたし（九日發）

▲例の慣用手段乎　東京に於ては淸國政府が駐日公使に訓電したるは例の慣用手段なりとて一笑に附り（同上）

▲韓太子の札幌着　韓國皇太子殿下には昨日札幌に着御旅館山形屋に宿泊本日附近各所を御巡覽あらせらる（同上）

▲韓太子牧場視察　兩陛下には韓太子北海道ミーカップ御料牧場に御歡迎の思召を以て藤波主馬頭を特派して諸般の準備を爲しつ〻あり（同上）

▲新井中將危篤　ワリヤーク號引揚を以て有名なる海軍中將新井有貫氏危篤なり（九日着）

雜報

●韓銀總裁の候補　美濃部、關、市原三氏中の一人必ず選に當るなるべしと噂せらる〻韓國銀行總裁の地位に對し目下元老大臣富豪實業家等の後援を藉りて其筋に向つて運動中なる自稱候補者其の數三十有余名なりと云ふ、中原の鹿何人の手に落つべきやは未だ明らかならざるも恐らくは各般の事情より推して關、市原兩氏中に決定するならんと云ふ美濃部氏が有力なる候補者たることは言迄もなきことながら同氏が北海道拓殖銀行を去るは同行多數株主の同意せざるところにして本人に於ても强て此際同行を見捨つること能はざる事情ありとの事なり

●韓銀委員と各派　韓國銀行創立委員の顏觸は已に決定して去る五日發表の筈なりしが貴衆兩院の所謂政治家は此際權利株にて一儲せんと各黨派の代表者を桂首相に迫り嚴談するところありたるを以て素より圓滿を標榜する首相の事なれば遂に兩院政治家の要求を納れ各黨派より創立委員を擧ぐることゝなしたるを以て頭數の權衡其他に付目下協議中なるを以て發表も自然遲延し居る次第なりと云ふ因に韓人側創立委員は二人の豫定なりしも都合により五、六人となすならんと云ふ

●統監府の豫算內容　統監府及所屬官廳の來年度豫算案は目下統監府に於て編成中なるが來る十三日頃迄には全部終了すべし而して來年度豫算案の內容は新鐵道計畫則ち京元湖南の敷設の外別に新計畫なく豫算額は高等官一割判任官二割の割合を以て減俸を斷行する方針の由なれば結局經常部豫算總額の上に於て多少の減額を見るに至るべし尤も法務部を統監府內に新設する事とならば從來に比し多大の增加を見るべし

●雨鐵豫算の編成　韓國鐵道の所屬轉換問題は目下日本政府に於て審議中なるも未だ確定に至らざる由なるが統監府に於ては兎に角京元、湖南兩鐵道の敷設費を韓國鐵道廳臨時部豫算として大略編成を終了し兒玉書記官携帶近く東上の上大藏省と打合せを爲すべしと

●龍山停車場の落成期　本年一月に起工せし龍山停車場は既に七八分通り工事を終り豫約より一ヶ月早く來月中旬全部落成の見込なるが其建築費は七万六千圓建坪は本館三百六十六坪プラットホーム三百廿坪にして館內の裝飾も行屆き殊に消火水管を設くる等韓國にては最も進步せる停車場といひ得べく火災前の停車場は十三萬圓の建築なりしも今回は基地工事は以前の儘にして工賃等も當時の三分一なるを以て結構に於て決して罹災前の建物に劣らずといふ

●對日淸問題韓人の態度　安奉線問題に對する在留邦人は一般に沈靜を守りつ〻あるも韓人側にては揣摩臆說流傳し今にも戰爭の開始さる〻が如く唱導し甚しきは在留淸國人に對して嘲弄の態度さへあるを以て其筋にては戒飭を加へ居れりと

●警察制度及び構成法　現今の警察制度は司法權委任に伴ひ多少改定を要すべきことは既報の如くなるが同制度は裁判所構成法の制定を見たる上に於て改定の上日本政府より發布の筈にて構成法と共に目下參與官會議に懸り居れりと

●東門外に各相の會合　目下東小門外淸水洞靑岩寺に避暑中の李總理は昨八日趙農相、高法相、李親衞府長官其他を招待して何事かに就き協議する處あり兩相は深夜歸邸したるも李長官は今尚は滯在せりと

●警官學校設立の方針　司法權委任に伴ひ警察制度を改定すべきことは別項の如くなるが當局官憲に於ては良警察官を養成すべき必要あるを以て現今の警察官練習所を擴張し警官學校を設立する方針なりと

●小學校長會議の終了　過日來京城第一小學校に於て開會中の在韓小學校長會議は愈々終了したるを以て一昨日來夫れ〴〵歸校しつ〻ありと云ふ

●鐵道不通線路の復舊　京義線及び馬山線の一部は出水の爲め不通なりしが何れも九日以來全通したり

●仁川有志の招宴　仁川築港期成同盟會にては築港に關する相互意見の交換を爲す

有志者は來る十四日北村新任判事を淸華亭に招待して送別會を開く筈なるが氏は警務局長官房主任として就任以來剛直の聞ねあ

●京城人需要の鮮魚額　昨今日の丸、水產兩市場に於ける一日の鮮魚賣上高は四百圓より七百圓の間を往來し

多く十一月より春にかけては釜山、馬山、或は長崎地方より輸入し來る鮮魚の盛時は十月より同五月頃迄にして千圓より千五百圓

ざる爲めなるが供給充分にして多少價の低落を來せば需要は確かに今日の倍額に達すべき見込なり今日は需給不權衡の爲め貴行

●本田書記官歸任　鄕里島根へ歸省中の本田學部書記官は十日出發歸任し途に就く

●[illegible]記者出帆　[illegible]午後八時

●各銀行會社上半期概況（其六）

漢城銀行

長　取締役　李載完

支配人　李升鉉

資本金　三十万圓　拂込　七万五千圓

政府貸下金　十萬圓　無利子

積立金　五万四千圓

貸附金　三十八萬千餘圓

預金　三十八萬圓余

利益配當　年一割五分

上半期營業景況

昨年來經濟界の不振は連續して毫も活氣を呈し來らず米穀の輸出頓に減じたる爲に益々市況は沈滯し從て輸入品も減退せしを以て商業資本の活動なく唯預金のみ漸次增加するの傾向を生じ且つ險惡なる經濟狀態の連續の爲に韓人商賈は悲慘の狀態に陷入り破產倒產者踵を接するに至る此際に於て徒に利を擧ることのみに眩惑すれば思はざるの禍を招く恐れあるを以つて愼重なる態度を採り最も確實なるべき保證手形により貸出しをなすの外あらず然るに五六月に至りて米穀相場稍上向きとなり商況も從て活氣を帶び來りたれども韓國に於ける全體の經濟狀態は依然たるを以て到底永續すべくもあらず斯る狀態に包圍せられつ〻ありし爲に本期は滿足なる結果を見る能はざりしも其間に處して相當の利益を擧げ得て一割五分の配當をなし得たるは聊か自慰するに足るものありと

貸出金日步は保證手形にて二錢八厘より四錢三厘迄預金日步は定期八朱當座一錢二厘小口一錢六厘

支店は水原と東萊にあり何も前途有望也

●大屋長官庭園　鐵道廳長官大屋權平氏は其官邸に隣れる五千坪餘の崖地を金三万圓にて買收し目下手入中なるが落成の上は當地有數の見事なる庭園となるべし

●東拓法改正案　政府は來るべき第二十六帝國議會に向つて東洋拓殖會社法改正案を提出する由にて目下右に付調査中なりと云ふ

●宋秉畯と中樞顧問官　八月一日付を以て前內部大臣宋秉畯氏中樞顧問官に任せられ九日官報を以て發表さる

ため近々の內在京仁の各新聞記者、通信社員及び特派通信員等を招待する由なり

●大內代議士渡韓　進步黨所屬の韓國政務調査委員たる代議士大內暢三氏は實地視察の爲め來る十五六日頃來韓すべしと

●兒玉書記官東上　七日頃東上の豫定なりしも豫算編成其他の要務ありし爲め豫定より遲れて來る十七日頃東上する由なり

●大屋長官の東上　韓國鐵道所屬問題に關する重要任務を帶び近く東上の筈なりと

●池田局長の東上　過日來編成中の來年度通信管理局豫算案を携へ一兩日中東上す

●會議所の陳情書提出　韓國に於ける土地建物等の賣買讓與交換又は典當契約の場合は三十九年十月勅令六十號に依り土地建物證明規則に準ずべきこと〻なり而して之に就き漢城府尹理事官の査證を得る手續をなすに頗る時日を要する爲に金融の圓滑を欠く憂ひあり之が爲に昨日京城日本人商業會議所は會議の結果中村會頭の名を以て之が陳情書を曾禰統監及法部大臣內部大臣三浦理事官漢城府尹に呈出したりと云ふ

●大久保司令官の歸京　先月廿四日梨本宮殿下を釜山に御見送して歸途濟州、巨文の各島嶼を巡視し韓南地方視察中の大久保軍司令官は昨八日午後四時無事歸京ありたり其談に依れば南韓海陸とも暴徒海賊等の狀勢頗ぶる平穩にして軍隊の衞生狀態も極めて佳良なれば目下の處別に注意すべき形勢之れなしと談られたり

●永濱前關稅總長退京　今回關稅局總長を辭任したる永濱盛三氏は昨八日午前九時南大門驛發にて歸朝の途に就けり同驛には李總理趙農相任度相等韓國側の高官を始め統監府側よりは石塚長官以下各參與官書記官等見送人數百名の多きに達し中には途中驛迄見送れるもの亦尠からざりし

●南大門驛の乘降人員　七月中南大門驛に於ける乘車人員は二萬三千五百七十四人降車二萬一千百四十三人發送小荷物七萬二千七百七十一斤到着小手荷物二十万〇八百六十二斤發送貨物噸數千二百十一噸到着貨物八千二百六十四噸なり

●戶叶前書記長の送別會　商業會議所書記長を辭任したる戶叶薰雄氏の爲に議員一同發企となり來る十一日午後六時花月樓にて盛なる慰勞會を開くと云ふ

●西島六師團長の歸朝　駐韓第六師團長西島中將は昨九日の夜行列車にて龍山を出發し熊本の留守師團へ赴き本月末頃再び歸韓せらるべしと

●卜部秘書官出發　內閣總理大臣秘書官囑託卜部正巳氏は內閣の用務を帶びて今十日李總理の避暑地先なる東小門外の靑岩寺に約十日間の豫定を以て出張滯在すべしと

●桐技師の出張　北韓道路急設の要務を帶び內部技師中桐春太郎氏は日韓工夫若干名を率ゐ來る十一日北韓に向ふ筈なりと

●山本光三氏急行　大阪朝日新聞京城特派員の同氏は本社の特電に接し去る八日午前九時南大門發奉天に急行したりと

●三浦理事官歸任　馬山地方へ出張中の三浦京城理事官は昨九日夜歸任したりと

●熊谷民長の歸任　既報の如く地方旅行中の熊谷京城民長は一昨八日夜歸任したり

●白石博士の來京　白石工學博士は瓦斯會社の用務の爲め來京天眞樓に投宿せり

●神田大尉の入京　天安駐在の同氏は事[illegible]

●天氣豫報（自九日午後六時至十日午後六時）

北東の風晴後曇

務打合の爲本部へ出向を命せられ昨[illegible]

●山路亞川氏歸京　歸鄕中なりし[illegible]報主筆の同氏は去八日新夫人を伴ひ[illegible]

●敍任辭令　九日付左の辭令あり

度支部次官不在中代辨を命ず　度支部司稅局長　鈴木穆

補晋州地方裁判所判事給五級俸　木浦區裁判所判事　依田弘

補平壤地方裁判所判事給五級俸　木浦區裁判所判事　福岡[illegible]

公人私人

▲齋原三郎（長野地方裁判所檢事）[illegible]

▲佐々木文一（東京帝國大學講師）七日京城[illegible]

▲比企忠（京大理工科大學教授）同上

▲永徽次郎（帝大理工科大學助教授）同上

▲栁樺銀六（香川縣坂出商業學校長）[illegible]

▲澤田乙二（南海道鐵記官）不知火[illegible]

▲山本典夫（海軍中尉）八日上山[illegible]

▲橫山正顯（大藏省臨時建築所囑托）[illegible]

近事片々

▲安奉線問題は最後の通牒を發す[illegible]に我は直に改築工事に着手して段落[illegible]

▲淸國政府も是には稍狼狽し御前[illegible]開きて善後策を講じつ〻ありと左も[illegible]

▲國澤滿鐵副總裁は既に數千の工[illegible]ひて改築工事の地點に進行す準措頗[illegible]

▲裡面に於て淸國を煽動して我に[illegible]めたる某國策士等の顏色は唯や土の[illegible]

▲倫敦タイムスは日本の措置は批[illegible]所なし淸國が他の煽動に驅られしは[illegible]

▲徒に煽動せられ淸國が日本に反[illegible]愚擧を警告せりと流石はタイムス至[illegible]

▲更に最後に淸國の改革指導者は[illegible]日本たる事を覺悟すべしとは眞に公[illegible]

▲然るに淸國は兎角營大振て帝國[illegible]て誠意を缺く極東平和の爲に速に頓[illegible]

▲東洋の平和を保たんとすれば淸[illegible]國も帝國に誠意を捧げ和衷協同する[illegible]

▲七百萬圓の巨資投じて造營しつ[illegible]北韓の我兵舍は遲くも十月は竣功す[illegible]

▲是れ北境の重鎭東洋多時の今日[illegible]を强ふするに足る片々は大に之を喜[illegible]

▲淸津より間島に達する軍用鐵道[illegible]の必要を認め不遠着手するとの說は[illegible]

▲啻に軍用のみならず北韓北鄙の[illegible]此鐵道の速成は極めて必要なり風說[illegible]

▲北韓の開拓は何れの點より見る[illegible]須要の事に屬す北日本との交通も亦[illegible]

▲韓銀行創立委員には在韓邦人[illegible]ざるが如し是れ大なる誤謬須く悟る[illegible]

▲東拓會社現時の亂態を呈し居る[illegible]韓國の事に通ずる者の意見を徵せざ[illegible]

▲好餌の戒あるも顧みず徒に門外[illegible]により協議するも何の得る所かお[illegible]

▲委員長には上院の菓子備を以て[illegible]說あり專ろ目賀田男委員長をするが[illegible]

▲桂侯西園寺侯を輕井澤に追訪し[illegible]の內協を爲す首尾能く拜み倒せりと[illegible]

▲廿六議會も此二人者の內協によ[illegible]事ならむ鳴呼桂侯は終に議會を壽す[illegible]

▲目賀田男夫人令孃は暗の如く宮[illegible]を決行すと天晴れ勝海舟の娘たるに[illegible]

して入荷は目下仁川よりの分を主とし鯛鱸より畢竟するに高價なる故供給の需要の件は一

●北村判事送別會 內部及び關係官廳の…全泉監裁判所へ赴任すべしと云ふ



●韓國上流の風儀(二)

韓國の上流社會には今も尙依然として舊時の孔孟教總ての標準となり居る、されど唯だ夫れは口にのみ云ふ丈けで實際には行はれて居らぬ、然れば男女の關係も七歲にして席を同ふせずと云ふて、女は別房に住居せしめて良人の外他の男に會はしめざることにして居る、が夫れは形式のみにとゞまりて、男は巧に男禁制たる女室に入り込み女も亦た巧に情夫を自室に招き入る、故に男女七歲にして同席せざるべき男女は自由に姦通を擅にして居る、中流以下には此風が少くないが、中流以上には盛に淫蕩の風が行はれる、さても男禁制たる女室に如何にして男が自由に出入するかと云へば、そは極めて容易なる手段によりて出入し得ることこそ奇怪なれ、女が女の室に入るには上流社會では轎輿にて室にまで乘り付け他人に姿を見られぬ樣に其室に入ることが習慣となり居る、こは其姿を他し男に見らるゝを耻づるとするが爲也、故に其轎輿の中は先方の婦人の良人たりとも改むることは出來ないと云ふ習慣になつて居る、故に多くの姦夫共は此習慣を利用して女轎輿に乘じて其婦人の室に出入することは容易である是が爲に姦夫姦婦は表面上頗る不自由の中に不自由に相會して樂で居ることが出來る時には之が發覺することがなきにしもあらずだが、其時に於ける女の態度と云ふものは實に怖ろしい程度胸が据つて居る姦夫はがたがた慄つて居るが、姦婦は捨鉢になつて勝手にしろと云ふ見幕で大聲に怒鳴る、虛榮の化身たる韓國上流社會の人は之を公にするを耻るより內分に濟ましてしまふ、故に表面に現はれざれども斯の如き姦通沙汰は珍らしとせざると云ふよりも寧ろ多きに驚くのである、併し婦人のみが斯る汚行を猥りにするはけのものでない、良人たるものは尙は之に優りて汚行を擅にして居る、大抵の大官に三人四人の蓄妾のないものはない、寧ろ其多きを以て誇りとなして居る、茲に於て其夫人は勢ひ空閨の淋しきに泣かざるを得ぬのである、情夫を持つのは畢竟この結果である、要するに一方に於て斯く多く蓄妾を圍ひ妻を空閨に泣かしむるに於ては勢ひ妻は操行を亂するに至るは餘儀なき事なるべきか、是れ等はまだまだ恕すべしと雖も倅の嫁を橫取りし或は弟の妻と姦するに至りては最早言語に絕す、韓國の上流社會には此等破倫の情事頻々として起るを聞く、今或る大官が倅の嫁女を橫取りして其倅を憤死せしめんとしたる一場の波瀾を描きて讀者の一粲を買ふべきか

●電車少兒を轢く

▲彌次馬數百名の暴行

去る八日午後二時三十分麻浦電車終點より西北約一丁を去る地點に於て第十九號電車が進行中通つて線路を橫斷せんとしたる麻浦第二十六統五戶崔東植二男三童(八つ)を轢き左右兩足部の膝關節上部を切斷したるが之を聞き付け駈け來れる被害者の伯父崔元照(三五)及母朴は殆ど狂人の如く復讎を爲さんとて電車に取り付きしに附近の彌次馬共も附和雷同して電車を包圍し頻りに石を投ずるにぞ車掌運轉手等は附近なる麻浦第二駐在所に避難したれば又々此處を包圍し約五百名の多衆勢を賴みて暴擧を企て同駐在所三方の窓口より石及び煉瓦等を投込み爲めに運轉手金永植は前額部二ヶ所左肩部右臀部左頭部に打撲傷を受け又車掌朴範植は左前上腿部に疾病休業十日に至る打撲傷を受けたり然るに彼れ等は兩人を殺害するに非ざれば止まらざる樣子なりしが急報に接し龍山署の谷川警部は日韓人巡査數名を引率して現場に出張し說諭を加へて漸く解散せしめ負傷者は靑木病院に收容したるも不穩の形勢あるにぞ巡査數名を附近に配置して警戒を加へたり尙ほ被害者三童は入院後死亡したりと

●振られた返報

龍山新市街柳町一丁目豆腐賣土肥義一方雇人岸上文藏(二十)は去る七日午後八時三十分當地南部駱洞蝎甫屋李密陽方に至り蝎甫を買はんとし懷中を改めて所持金二十一錢より持合はさゞる爲め思ひ止まらんとせしも一人の蝎甫が之を見て二十一錢でチョッと答へしかば然らばとて室內に入り双方異裸体となり正に寢に就かんとする際女は不意に二十一錢では不足なりとて同衾を拒み且つ文藏の局部を見て甚敷く嘲笑を加へしかば文藏は大に憤り女を取つて突き飛ばし負傷せしめたる騷ぎに李より告訴せしも結果所持の二十一錢を膏藥代として差出す事となり遂に要領を得ずして立歸りしとは近頃の滑稽

●井戶端の不意打

仁川平洞居住鄭德友の妻某と云ふが一昨日午後六時同地萬石洞稻田所有の井戶附近にて洗濯し居たる折柄突然邦人現はれ毆打を加ねたりと花房町派出所に訴ね出でたれば警官出張取調べたる所右邦人と云ふは同地居住福岡縣人竹末又四郎(四四)と云ふものにて前記德友の妻が共同井戶附近にて不潔なるものを洗濯し尙小供をして糞便せしめたるより見るに見兼て制止の爲め斯くは毆打を加ねたる次第と判明したれば双方に說諭を加ねて事濟みとなる

●韓婦人を誘拐す

仁川府內松林洞居住姓名不詳の妾守(三九)の妻某と云ふが此の程何者にか誘拐せられ行衞不明となりたりとて良人の妾守は仁川署に保護方を訴ね出でたれば韓刑事は搜索に勤め居たるが此程に至り同地居住の安又七及び同人の妻金召史と云ふが共謀して前記妾守の妻を誘拐し黃海道白川の朴哥と云ふに世話したりとの風聞ありたれば金召史を引致し取調べたる所全く事實なりと自白したれば目下關係者を召喚して尙取調中

●車上より轉落

農商工部屬小野政幸妻小野ねさ(三十)は去る八日午後八時三十分頃南大門驛車場韓人車夫張守福(三十)なるものゝ力車に乘じ政幸相並んで本町に向ふ途中南大門通二丁目一番地建井豐吉宅前を本町筋に折れんとして電車踏切の處に於て過ち車夫が顚倒したる爲め車上より落ち唇に微傷を負ひ出血したりしかば一時豐吉宅へ連れ込み介抱を加へしかば暫くにして回復したりと

●酌婦橫行を極む

旭町一丁目三十五番戶飮食店加納さい方酌婦入川たき(二〇)本町一丁目裏野村梅吉方酌婦小池うめ(三一)同松本こう(二九)同上履人品川ひで(二〇)同土肥萬次郎方酌婦中島たよ(二九)同奈良谷ふゆ方酌婦豐浦ぐん(二〇)及び長谷川町二丁目二十九番戶同爾亭事早咲くき方酌婦宮本はつ(二二)は粉粧の儘道路を徘徊し盛んに通行人に遊興を勸めつゝありしを警官に發見せられ南部署に召喚說諭を受く

●病中の女を犯す

西小門通六十一統六戶居住川崎丑松(二十)は去る七日午後六時頃駱洞蝎甫家李致德方に至り病中の蝎甫の室に浸入せし爲め主人の李は之を制せんとして互に喧嘩を爲し双方共擦過傷を負ひしを警官出張して南部署に引致し說諭の上放還す

●撲り賃が金三圓

仁川鐵工所の職工熊宮伊三郎(三〇)と云ふは一昨日午后八時半頃同僚二名と京町一丁目を通行する途中韓人李善京と云ふが路上に臥し居りたるを伊三郎が足を踏みたりとか踏まぬとかにて喧嘩を初め李の顏面に傷を負はせたる爲め警官出張の上治療代三圓を伊三郎が出すことゝなりて事濟みになれり

●淫賣屋の痛事

若草町一丁目料理店營業福岡たか(五十)は自宅酌婦として石崎みてを下女として福永ふきよを雇入れ及び酌婦谷口けいを解雇しながら警察官署へ其屆出でを怠りしかば昨日南部署にて科料金各五十錢に處せられたり

●酌婦に客を引かす

旭町一丁目飮食店營業向井いち(三十)は不埒にも去る四日午前一時四十分頃南大門通二丁目の街路に酌婦を派遣して客引を爲さしめたるを巡査に認められ科料金五十錢に處せらる

●裸体男の科料

本町七丁目二十八番戶居留天野勝一(十九)は去る二日午後二時三十分頃自宅工場公衆の目に觸るゝ所に於て裸体となり居たる爲め昨日南部署にて科料金十錢に處せらる

●大道で鹿を拾ふ

旭町一丁目百三十五番戶別府市五郎は八日午後五時頃旭町一丁目度支部官舍下にて牝鹿一頭徘徊なし居るを取押へ南部署に屆出づ

●シンガー裁縫講習會

西小門內シンガー裁縫會社にては南山町二丁目に講習所を設け講師數名を東京より招聘し來る十五日開場する由尤もシンガー裁縫の練習は普通三ヶ月を要するものなるも今回は特に三十日間にて一般を會得せしむる筈尙希望者には講習用シンガー機械をも貸與すと云へば至極便利なるべし

演藝

▲歌舞伎座 は酷暑の爲め來る土曜日迄臨時休演と爲す▲永樂亭 今夜は遊一の落語、若太夫の新內、琴凌、松林の講談木村長門守、百朝の新作落語、松猿の軍事講談なりと▲京城座 今明兩日の替りは「乳母の身代り」なりと

家庭料理

●海鼠の梅和へ▽梅干の種子をぬき裏漉にかけて皮を去り、夫れに白味噌を交せ砂糖を加へてよく摺りて、別に海鼠を橫に細く切り梅の肉をつけて出す、茹でたる蓮根を附け物とするもよし。

▽鮑の鹽むし△鮑一ツを貝殼よりはがし酒一合水六合鹽十匁にて煮詰め、後ち水洗ひして、蒸籠で蒸し、刺身の如く薄く切り食へる



▶平民文庫

▲大和町統監府樂善寮の前の○中○吉とか云ふ人の標札ある家の小犬は通行人に吠付て困る繫ぎ置かざれば殺してやるぞ(被害者)▲元にしきの五郎は土曜日の晩南山公園で大聲を放つて某氏の惡口を吐いて居たから其要領を早速通知した處が某氏も大變立腹したが女子と小人の例へもあれば別に故障は言はないそうだ(立聞生)▲龍山造家の阿良川傭手よ汝吾等の筆誅に今尙懲りず專橫と暴威を逞ふし事務に當つては處決の識なく現場に出ては作業を見るの明なく只怒聲一番直に或る者の提供を强求するの手段のみ取る今にして改めずんば事實を摘發するのみならず汝の頭蓋骨は粉碎の厄に逢ふや必せり吾等一同茲に最後の反省を促す(被害總代)▲昨夜南大門通りを散歩やしに三丁目邊に通り掛ると二階より唾を吐き掛けた野郎と喝一喝階上を見れば浴衣姿の美人團扇片手に階下を眺め居れり僕は相手にするも大人氣なしと不問に附したるも以後注意せぬと美人の顏でも二度目には承知せぬぞ(通行生)▲大工のれ神さん每夜近所の若者を引き出して共同便所に入つての自然主義の擴張には聊恐入るね如何に臭い中とは云へ少し愼まぬと近所の平和を破りますねー(靑生)▲壽町の屋根に靑死を載せると入る家では每日深夜になると入八合戰の聲八釜敷く其聲屋外に漏れ近所合壁の迷惑此上なし其筋の注意を望む(迷惑生)

▲無料紹介欄▼

入學部

●英文代書 通譯周旋 本町一の七五中村

●商品販賣員募集 午前十時前希望者本人來談あれ 本町一、三巴酒店奥武田質店（四一〇）

●被雇度 年廿九市内に確實保證人有韓語に通ず不問職業被雇たし氏名在社（四一三）

●韓語通譯 會社銀行又は商店を問はず韓語通譯に被雇たし 氏名在社（四一二）

●家庭教師 某美術學校卒業生廿三歲市内相當の家に被雇たし 氏名在社（四一四）

●下女入用 年齡三十歲より四十歲迄にして身体壯健なる者至急入用但し月給八圓 氏名在社（四一七）

●被雇たし 月俸廿五圓以上を望む通信事務韓語飜譯中等教育年廿四不問職業 氏名在社（四一八）

賣藥行商人數名募集 希望者は本人直接來談あれ 明治町三の一五七 松水藥房

物件部

●醫士開業向貸家あり 本町三丁目 贊化堂藥局（四一一）

●貸家 南山町二丁目にて煉化造二階建十疊と外四間二階二間家賃面談 氏名在社（四一五）

廣告

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲一ヶ年前拾參圓

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金六十錢

發行兼編輯人 高木久三郎

印刷人 松久神一郎

發行所 京城新報社 京城西部小門通 電話六六三番